

地域密着! 子育て 対談

【タレント】
佐藤弘道氏
×
今井進太郎氏
【トキっくらぶ代表】



佐藤弘道
Sato Hiromichi
【タレント】
(たとひひろみち) 1968年、東京都新宿区生まれ。日本体育大学体育学部卒業後、世田谷区教育委員会の教育指導員を経てスポーツクラブのインストラクターとなる。1993年、NHK「おかあさんといっしょ」第10代目体操のお兄さんを12年間務め、体操のコーチだけでなく、イベント、彼のクラブなどでも活躍。2002年には、子供たちと指導者のためのスポーツクラブを立ち上げ、全国で親子体操教室や幼児体操教室、保育士講習会などを行う。現在、各民放のバラエティー番組や情報番組、CM、舞台、イベント、雑誌など数多く出演し、親子のための体操やCM用などのオリジナル体操を考案するなど多方面で活躍中。

地域で考える、 これからの子育て

「子育て」は「孤育て」と言われるほど、
子育ての悩みを一人で抱える親が増えており、
子どもを育む環境も閉塞的になってきている。
親子が安心して育ちあえる環境づくりに地域社会ができることは何か?

「子育ては一人で悩まず、輪を広げていくことが大切」

【今井】子育て中の母親、父親は子育てに関して常に悩みを抱えています。佐藤さんは、親子体操や講演会等で、全国各地を回っていらっしゃいますが、子育て中の親の悩みについてどのように感じていますか?

【佐藤】根本的に、悩んでいる人は一人で悩んで

いますよね。でも、同じ年代の親は必ず同じようなことで悩んでいるので、そこでお互いの共通意見を出し合うことで改善策を考えたり、子育ての先輩である、おじちゃんおばあちゃんに意見を聞いたりしてほしいですね。そういう横の連携作りと縦のつながりがあれば、すごく楽になると思います。そして、その横と縦の関係が広がれば、地域の輪が広が

「家庭、学校、地域に求められる役割」

【今井】最近、子育てに積極的な父親が増えているようですが、父親の子育てについて、どのようにお考えですか?

【佐藤】基本的に、男と女の役割は違うので、子どもに対して母親と全く同じことをするのは無理だと思います。男性は、母乳をあげられない代わりに体を張って、遊びも母親以上のハードな遊びをすることで、子どもは新しいスリルや、高さ、楽しさを味わったりすることが出来ます。男性と女性、父親と母親のそれぞれの役割、お互いの役割を果たすことで育児の共同参加ができると思います。

【今井】役割というのはひとつのキーワードですね。家庭の役割や学校の役割、地域の役割もありますが、学校の役割はどのようなものだとお考えですか?

【佐藤】学校の役割は、友達との助けあいや競い合いなどの集団教育ですね。家庭の役割は個人の教育、しつけだと考えています。
【今井】競い合うことも大切ですね。
【佐藤】もちろん。私は体育系出身なので、3

位よりは2位、2位よりは1位とやっぱり求めるものがあるじゃないですか。目標がなければ体力づくりは難しいのではないかと感じます。運動が軽く評価された結果、体力不足という言葉が出てきましたよね。

【今井】最近よく子どもの体力低下を耳にしますが、その実態はどうなのでしょう?

【佐藤】数値的なものは徐々に回復していると思います。ただ、昔よりも運動不足の要肥満な子どもも多く、数値を下けている現状もあります。その子達を通常数値の体重や体脂肪に下げることができれば、数値は昔とほぼ変わらないのではないのでしょうか。ただ、最近子ども達が自由に運動し、遊ぶ場が少なくなっているのが、防げるのは少々難しいですね。

【今井】佐藤さんは「親子体操」を全国で教えていらっしゃいますが、子どもだけでなく、親子で運動をすることの良い所はどのようなところですか?

【佐藤】0〜12歳児に一番大切なことは、肌と肌が触れ合うこと、目と目を見詰め合うことです。これをきちんとしておかないと、親子のコミュニケーションが不足して、絆も薄れてきてしまいます。小さい頃に蓄積された親子のコミュニケーションはすごく重要で、それは地域に出たとき、社会人になった時に大いに役立つと思います。

【今井】子どもを育てるには、家庭の役割、学校の役割に加え、地域の役割も重要だと思います。地域は子どもや子育て世帯に対して、どのような役割があるとお考えですか?

【佐藤】地域ができるのは、子ども達を犯罪などから守ることだと思います。大人が、地域の子どもの顔と名前を知ることによって、子どもを守る目が増えれば、地域は相当安全になっていくと思います。

【今井】地域社会には企業も含まれると思います。新潟でも地元企業が、絵本や本を教育向けに寄贈しています。単にあげるのではなく、そこにはしっかりとしたい想いがあるんですね。長岡市は米百俵の精神で有名なので、次の世代を育てるために寄贈して、子どもたちが育つてくれれば、地域が豊かになると考えています。

【佐藤】絵本は心を豊かにしてくれますからね。想像力を高めたり。子育ては未来を育てるとよく言いますが、それにつながると思うので、企業には可能な範囲でどんどんやってみてほしいですね。

「子どもと向き合える環境づくり、安心して子育てできる地域づくりが必要」

【今井】これからの子育てには、何が一番大切だと思いますか?

【佐藤】子ども自体は、昔からそんなに変わっていないとは思えません。変わっているのは、環境や大人だと思います。何も変わっていない子どもたちを変えないような、環境づくりをしていかなければいけないですし、そのためには大人が子ども達にもっと目線を送って、安心できる地域づくりを行うことが必要だと思います。

【今井】地域の活動が活発になれば、子ども達を育み、子育て中の親が気楽に相談できるコミュニティが形成されます。地域社会全体が子ども達に目を向けていくことは本当に大切ですね。

【佐藤】あとはやはり苦しい情勢ですが、苦しいところを子どもに見せるのではなく、その中で幸せなものを見ることが重要だと思います。大人として楽しい、仕事で楽しいと思えるような姿を大人として親として、子どもに見せたいですね。

【今井】どうしても苦しいとき、苦しい時はどうしますか?

【佐藤】これは育児だけでは無いですが、大変なことをしなければならぬ感じがしないはずで、悩んで光が見えた瞬間、やり遂げた達成感があるから楽しさがあるんだと思います。楽しいことは何れでも何の記憶にも残りません。子どもと関わる子育てとはその繰り返し、そこが楽しいですね。

【今井】最後に、親育てや親育ちと言われていますが、子育て中の親自身には何が一番必要だと思いますか?

【佐藤】子どもと向き合うことですね。子どもは親の背中を見て育ちます。親は「子どもだから知らないだろう」と思っていることも、実は子どもは何でも知っています。だから、しっかりと向き合うことが大切だと思います。

【今井】佐藤さん、本日はどうもありがとうございました。

【佐藤】ごちそうさまで、ありがとうございました。



今井進太郎
Imai Shintaro
【にいがた子育て応援団トキっくらぶ代表】
(いまいしんたろう) 1979年、新潟県長岡市生まれ。1997年慶應義塾大学経済学部卒業後、マーケティングのコンサルティング会社の勤務を経て、販売・営業支援会社コマスマーケティング(株)を設立。中小企業診断士として、新潟県内企業の経営サポートを行っている。また、地域社会発展の仕組みづくりの一環として、2007年から子育て支援保持カードや子育て情報誌の発行などを行う「トキっくらぶ」をスタート。地域における子育てニーズを的確に捉えたサービス提供により、新潟の子育ての輪を密着に広げている。

企画・制作
朝日新聞社広告局